

夏山合宿報告書

劔岳～大日岳、2011年8月11日～14日



体制：芦田 直之 (CL)、吉川 浩行 (SL)、伊藤 千佳子、神戸 和広、小村 正人、方田 智貴

8月11日 曇 朝の気温：13℃

9:55 室堂着 → 11:00 雷鳥沢キャンプ場 → 12:00 1本、2500m 辺り → 12:50 1本、劔御前小屋前 → 13:40 劔沢キャンプ場着

合宿 A 隊は2年前の劔岳撤退からの再訪と我々新人訓練を目的に、B 隊と「道の駅 新湊」で別れた。立山駅からケーブルカーに乗ると小雨が降ってきたが室堂に着くと雨はやんだ。雷鳥沢までは観光道路で足馴らし。皆調子は良さそうだ。途中、芦田チーフリーダーから読図講習を受け、これから登る登山道を確認した。今日は岩場は無いので気楽だ。途中カメラマンの小村さんが撮影で気づくと隊が離れがち。今日は良いが、行動時間に余裕が無い時は心配だ。劔御前小屋はややガスでパラついたが、劔沢に降りて行くと、眼前に素晴らしい風景(ハイジのアルムの森?)が広がっていた。なお感動には個人差があります。劔岳本峰はあいにくガスの中だったが、明日の好天気期待して、チームは夕食の準備に取りかかった。(神戸)

8月12日 快晴 朝の気温：10℃

4:30 起床 → 6:16 劔沢キャンプ場発 → 6:35 劔山荘 (水補給) → 7:30 一服劔 (2618m) 頂上 (一本) → 8:20 前劔 (2813m) 頂上 (一本) → 9:45 カニの縦這い過ぎ (一本) → 10:06 劔岳頂上着 (大休止) → 10:25 劔岳頂上発 → 11:20 カニの横這い通過 → 12:30 一服劔前コで一本 → 13:05 劔山荘 (大休止&写真) → 14:00 劔沢キャンプ場着

朝、4時半前、薄っすら明けだした空と周囲の歓声で目が覚める。V6テントから顔を出してみると快晴の空をバックに前刃がクッキリ写し出されている。今日の天気は最高だ！2時半頃からゴソゴソする外野に妨げられ、また前夜からの鼻風邪で十分寝付けなかった筆者だったが気分は上々。全員用意を済ませ、いざ出陣。劔山荘裏の右折ポイントを見落とし50m程戻すも、朝露したたる花あり、絶妙な撮影ポイントありと各々楽しみながらの山行。(ハイキングの延長はココまで)気がつくとも一服劔頂上着。ここでは未だ富山湾が見渡せるが、西側から忍び寄る雲が気にかかる。(今日一日来ないでくれとの思い)一服劔を過ぎ、最初の鎖場が現



カニの縦這い

れ皆緊張が走る。ここで新人3名に通過点の注意事項を伝え、それぞれ慎重にポイントを通る。新人の飲み込みが早い！途中、唯一水平に掛けられた梯子が(遙か彼方まで透けて見え)妙に気持ちが悪い。そして何本かの鎖場を経て、要注意ポイントのカニの縦這い過ぎた上方で一本。(今回は連休前とあってか登山者の数もまばら、学生&リタイア組中心で渋滞がないのはラッキーだ。)その後、慎重に鎖場をクリアし、10:06頂上着。各々の成功に熱い握手を交わした。頂上では360度のパノラマを満喫し、また祠の前で写真撮影など楽しんだ。(芦田師匠はココで最高の笑顔をしていた”あるペア”にターゲットを絞っていた事が後に発覚) 帰路、途中まで一緒だった若い3人組パーティとすれ違い、「あと一息」の声に安堵する女性登山者の笑顔が印象的だった。またカニの横這いでは明

治大学山岳部の方々に遭遇し、話題が神園さんのお父様の話になり、知名度の高さに驚かされたものであったが、一方で部員の方々にはDNへの入社とセットで)当山岳部への勧誘も怠らなかった事を付け加えておく。その後、劔山荘まで順調に下山しそこで一本。緊張が解か



カニの横這い

れた開放感からか、芦田師匠の提案で山岳部PR用写真の為、頂上で出遭った先程のペアを待つことに。待つことしばし、御両名が現れ神戸、吉川を残し4名でお願いに。結果は快諾。数枚の写真撮影を終え、14時無事にテン場到着。

(写真ご快諾の御両名:石川様には、誌面をもちまして深くお礼申し上げます)テン場では昨日以上の登山者であふれ、岩場でのザイルワーク練習や「1・2・3・4・・・」というストレッチの掛け声が聞こえるなど賑やかそのもの。2年前のテン場での迷子事件が思い出された。(Tさん思い出させてゴメンナサイ)夕刻、劔岳に雲が掛かりだし、今日一日の安全登山に感謝した筆者であった。(吉川)

8月13日 曇り

- 6:20 劔沢出発
- 6:55 (道の確認)
- 7:00-7:15 劔御前小屋
- 7:50-8:00 一本
- 8:25-8:35 一本(劔御前と奥大日のコル)
- 9:15 室堂乗越・奥大日岳分岐
- 9:20-9:35 一本
- 10:10-10:30 奥大日岳
- 11:35-11:45 七福園手前
- 12:30 頃? 大日小屋着

4:30 の起床時刻前に伊藤起床。着替えや片付けをして伊藤ソロテントから出ると、明るくなってきたテン場はもやの中で劔岳は見えない。昨日の快晴の貴重さをあらためて感じる。V6でもち入り中華スープをつくり、食す。昨日は朝ごはんは時間に時間がかかったが、今日の朝食は超簡単でお湯が沸いたら完成なので速かった。

テントの撤収も手早くできて、予定より早い出発ができた。サブリーダーの練習ということで、トップは方田さん。次に伊藤が歩くが、朝一番からかなりスピードが速い。これは辛い・・・と思っているところで吉川さんが後ろから朝はかなりゆっくり目にしてとアドバイスを飛ばす（感謝！）。しかし、方田さんに聞こえなかったのかペースがあまり落ちないので、吉川さんが2番目に入ってペースやトップの歩き方などを指導しながら歩き始めた。剣御前の中腹まで登り、道が間違っているのでは・・・ということで地図を広げて確認。昨日も何度かあやしかったので、ちょっと疑心暗鬼気味なのかもしれないが確認するに越したことはない。結局、正しいということでそのまま進み、すぐに剣御前小屋に到着。芦田さんが山田さんに連絡を入れるために小屋の外で待機していると、方田さんが後輩にあたる（といっても面識はない）大学のデモスキーサークルの学生たちを発見し、少し話や記念撮影をした。私は後輩にも知り合いにも山で会ったことはないので、少し羨ましい気もする。もやの中でほとんど何も見えない中再度出発。昨日も今日も地図を確認したが、全体にそれほどアップダウンはない尾根歩き・・・と思っていたが、雷鳥沢や地獄谷方向に降下しており硫黄のニオイも強く、再度道が不安になる。もう一度確認。眺望がないので、自分の周辺数メートルに咲くピンク、白、黄色、紫の花を楽しみながら歩く。花の名前がわからないのが残念だ。後方の2人（写真撮影している小村さんと芦田さん）は常に前方4人と少し離れ気味だ。リーダーが一番重い荷物を持っているらしく、休憩のたびにザックが重いとぼやいている。意外とアップダウンもあるなあと思いながら奥大日岳に到着。先客もいたが、眺望が全くないのでみんな表情がうかない。「奥大日岳」の看板を持たないと真っ白の背景でどこなのかさっぱりわからない。一応写真撮影と休憩をして大日岳に出発。高低差がないと甘く見ていたせいもあるかもしれないが、アップが辛い。昨日はアタックザックのみの行動で今日はフル装備なので、荷物も重く感じる。中大日岳というかなり控えめな看板を通過した後は、残り40分くらいだろうと見越していたが、地図の読み違いで実際にはもうしばらくあってまだ着かない！という感覚だったが無事到着。事前情報のおり大日小屋にはテン場はなく、会計の小村さんが小屋泊の手続きをしてくれた。当初満員なので食堂で寝ると聞いたが、しばらくすると空きができたので寝室が使えることになった。食堂では時間の制約も多いので、寝室が使えてよかった。しばらく外で飲んだあと、おのおの寝室のふとんで昼寝をしたり、シナトラが流れる食堂で山雑誌をめくったりしながら15:30頃までゆっくり過ごした。夕食は外のテーブルで調理と思っていたが、雨が降ってきたので小屋の土間で調理開始。今回、男性陣が積極的に調理や片付けをしてくれるのでとてもうれしい。方田さんは調理全般、吉川さんが炊飯をしてくれたので私は指示とお手伝い。感謝。小屋の人の子供（7歳女の子、もう一人同じくらいの女の子）とが夏休みで滞在しており、私たちの調理の様子を覗き込んでくる。吉川さんや方田さんは子供の扱いも上手で感心。完成し雨がやんだ外で夕食を食べたがかなり寒かったので、お茶を飲んで撤収。この小屋は「ギターとランプの小屋」というキャッチフレーズがあり、夜は小村さん除く5人で食堂でのギター演奏を聞いた。ムーディーなランプの下で若いイケメン？おにいさんがアコースティックギターの曲を5、6曲弾く。普段のテント泊とは違う優雅な時間を楽しんでふとんで就寝した。（伊藤）

8月14日 快晴

6:15 大日小屋 → 6:30-6:45 大日岳 → 7:00 大日小屋
→ 9:05 大日平小屋 → 10:20 猿ガ馬場 → 11:10 大日岳登山口

3:00 大日山荘から剣岳を見る為、小屋の外に出てみると、昨日とは違って変わり、期待（希望）どおりのNO GAS。剣岳はもちろん、毛勝三山、後立山の山並みがきれいだ。6時前に朝食を済ませ、早速、カラ身で大日岳頂上へ。15分ほどで頂上に到着。静かな時がゆっくりと流れていく。それにしてもホント素晴らしい景色だ。小



ガス立ち込める尾根



大日岳山頂で剣岳を背景に

屋前で見た剣岳や後立山はもちろん、富山市内、富山湾がよく見える。山に感謝、自分に賞賛を。この景色を見る為にこの合宿があったと感じる。しばらく頂上を満喫した後下山、15分ほどで小屋に着く。07:00 下山開始する。天然水場で給水し、やがて大日平に出る。この辺りから、山を降りた為か、太陽が昇ったのか、気温が上昇し、爽快さが薄れるが、木道が続き、景観的には、気持ちのいいところだ。09:05 大日平小屋に到着。木道ゾー



大日平と薬師岳

ンが終了すると、「牛の首」と崩落箇所が控えており、いまままで急坂を下ってきて、疲れきった足には結構応える太ももが悲鳴を上げる。ゴールの称名滝を目指すのが、滝の音が聞こえないな、なんて思っていたら、観光客の声が聞こえ、いきなり登山口に到着(11:10)。汗臭さを心配しながら大勢の観光客に混じって、称名滝の霧状の水しぶきを浴び、ほてった体癒す。12:55のバスまで時間がある為、レストランで昼食を取り、バスで、立山駅へ。グランドサンピア立山で三日ぶりの風呂に入り、剣岳登頂したんだという達成感に浸り、帰路に着く。

所見

【計画、行動】1日の行程が約5~6時間と余裕があり、新人でも無理なく行動することができた。大日小屋では小屋泊まりとなったが、ふだんはしない経験ができてよかった。

【装備】6人でV6 1つでは狭いため、伊藤さん個人テントを持ってきてもらい、スペース的にはちょうどよかった。ロープを持参したが使うことはなかった。

【食糧】7人の予定で用意した食材を6人になってもそのまま持っていったので、多めだと思うが若いメンバーが食べきってくれた。米は3回分で2キロ。初日(片道4時間)の剣沢に2泊の予定だったので、あまり軽量化せずに生野菜や果物をたくさん持っていった。山で食べる生野菜はやはりおいしい。

反省点・感想：

- ・ 調味料は大事。塩と胡椒を追加で持っていったのはよかった。ソース焼き飯は具が想定より多くソースが薄かったので、ソースは定量より相当多く持っていくべきだった。
- ・ 棒ラーメンをはじめて使った(イトーヨーカドーで購入)。かさばらず、味もよくてよかった。(配膳中にのびてしまうので手早くやること)
- ・ 冷ご飯を炒飯にするのは温めるのに時間がかかり朝は不向き。水を加えて雑炊のようにすれば温まるのが速い。
- ・ 海草サラダのドレッシング、梅干、ちらし寿司の酢など、すっぱいものがおおいしく感じる。
- ・ 不破さんにいただいた高級牛肉しぐれ煮が絶品だった。

会計報告

収入	支出	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会費 ¥17,000 x 6 ・ 差し入れ ¥10,200 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食費 ¥11,800 ・ 車 ¥37,000 ・ テン場 ¥6,000 ・ 大日小屋 ¥34,200 ・ 公共交通機関 ¥19,000 ・ 温泉 ¥4,200 	
合計 ¥112,200	合計 ¥112,200	残高¥0

※差し入れを下さった町田さん、片山さん、不破さん、沼崎さん、天野さん、ありがとうございました。